

二三回生 佐怒賀 弘子
(片山)

さみどりのしずくと生れし母鈴子九十八歳さみどりに消ゆ

「弘子さん、充分でした」というように死への入口ふわり越ゆ

その朝もシルクのブラウス身につけし枢の母と芍薬で埋む

泣くおりはひとり泣くべし 背景の消されし写真コトリとうごく

ゆったりと身とばひろげて旅に出る フウセンカズラ種を飛ばせる

深夜なるブルコボ空港に月しろくやわらかに着地小さき旅人

巡洋艦オーロラ号の空砲よ音冴えいしや革命合図に

ネヴァ川に永遠とわのいかりやオーロラ号煽られ見上ぐつめたき風に